

## 令和3年度 岡谷市総合教育会議 会議録

以下のとおり、会議内容について報告いたします。

- 
- 会議名 令和3年度 岡谷市総合教育会議
- 日時 令和4年1月17日（月）午後3時00分～4時35分
- 場所 市役所9階大会議室
- 出席者 構 成 員 今井竜五市長、岩本博行教育長、草間吉幸教育長職務代理者、  
太田博久教育委員、高木千奈美教育委員、藤森一俊教育委員、  
小平陽子教育委員
- 市長補佐 小口道生副市長
- 事務局 酒井企画政策部長、木下企画課長、小平副参事、廣瀬主幹
- 補助執行 白上教育部長、両角教育総務課長、濱主任指導主事、  
伊藤生涯学習課長、小松スポーツ振興課長、伊藤主幹、横内主幹
- 説明者 原子ども課長、森下主幹、松下子ども発達支援センター長、西岡主査
- 議 題 1 少子化の進行を踏まえた将来の学校の姿について  
2 幼保小連携および小中連携の現状と展望について  
3 児童発達支援の現状と今後の展望について
- 配布資料 少子化の進行を踏まえた将来の学校の姿  
岡谷市における幼保小連携および小中連携の現状と展望  
岡谷市子ども発達支援センター
- 

### 開会

企画政策部長 皆さんこんにちは。ただいまから令和3年度岡谷市総合教育会議を開催いたします。それでは最初に今井竜五岡谷市長からご挨拶申し上げます。

### 市長あいさつ

市長 本日はお忙しい中、岡谷市総合教育会議にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。岩本教育長先生並びに教育委員の皆様には、日頃から岡谷市の教育の向上と発展に大変ご尽力をいただいておりますことに心から感謝を申し上げます。本日の会議でございますが、三つ議題が用意されているところでございますが、市側からは、昨年の4月にイルフ西堀保育園に併設し、開所させていただきました「岡谷市子ども発達支援センターの現状と今後の展望について」報告をさせていただきます。幼稚園、保育園から小中学校への接続の重要性について協議をいただきまして、第2期岡谷市教育大綱に掲げる基本理念「自立し、共生し、創造性溢れる岡谷のひとづくり」の実現に努めてまいりたいと考えております。

いずれにいたしましても、この会議を通じまして、教育大綱をはじめ教育行政の重要な事項につきまして、皆様と協議調整をさせていただきます、考え方ですとか情報、こういったことの共有をはかりながら、各種の教育政策を推進していくことが大切であると思っておりますので、本日は活発な意

見の交換をお願いしまして挨拶とさせていただきます。本日はよろしく  
お願い申し上げます。

## 教育長あいさつ

教育長 教育委員会を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

市長さんをはじめ市長部局の皆さんには、日頃より岡谷市の教育行政発展に  
向け、ご理解とご支援をいただいております。新型コロナウイルス  
への対応につきましては、各地で感染者が急増している中、市内におき  
ましても感染者事例が相次いで見られており、極めて憂慮すべき状況となっ  
ております。引き続き、市長部局からのご支援をいただきながら、気を緩めるこ  
となく教育現場の感染症防止対策を徹底して参りたいと考えております。

本日は、行政にとりましても喫緊の課題であります、人口減少と少子化がも  
たらす将来の学校への影響につきまして協議をいただき、続いて、幼児期から  
小学校へ、小学校から中学校へと入学する際の幼保小中の連携につきまして、  
市内の取り組み状況を紹介させていただく予定であります。

本会議により、市長さんをはじめ市長部局との認識を共有する中で、厳しい  
時代を生き抜く子どもたちの、よりよい教育環境づくりにつなげていけたらと  
考えているところでございます。本日はよろしくお願いを申し上げます。

企画政策部長 続きまして、本日の会議に入らせていただきます。本日の会議は、本会の運  
営規則に基づきまして、これ以降の会議の進行につきましては、小口副市長に  
お願いをいたします。

## 議題1 少子化の進行を踏まえた将来の学校の姿について

副市長 これから次第に沿いまして進めさせていただきますが、新型コロナウイルス  
感染症の状況が大変厳しくなっておりますので、効率的な進行に努めてい  
きたいと思っておりますので、ご協力の方よろしくお願いをいたします。それでは  
最初に議題の1、少子化の進行を踏まえた将来の学校の姿について、教育委員  
会より説明をお願いいたします。

### 【教育総務課長より説明】

(資料) 少子化の進行を踏まえた将来の学校の姿

副市長 ただいまの説明がありました議題につきまして、意見交換をしたいと思いま  
す。最初に市長さんご意見ご感想等ありましたらお願いします。

市長 厳しい状況というのは想定される部分もあるかと思っております。私たち行政とし  
ましても、これをこのまま「はいわかりました」と認めるわけではなくて、少  
子化に対して少しでも人口の減るカーブを軽減していこうと努力しておりま  
す。分析を行っておりますが、出生数の減少と市外への転出超過が課題になっ  
ておりますので、市外への転出超過に関しては、様々な施策を実施しております。  
やはり仕事がある、働く場を確保していくことで、若い世代に岡谷に住んで  
もらうということを取り組んでいますし、妊娠、出産、子育て、教育をしやす  
いまちづくりも考えていかなければいけないと、行政で考えられる様々な施策に

力を入れております。もう一つは新型コロナウイルス感染症の影響があつて難しくなっていますが、地方創生関係で人の流れ、働き方の改革、岡谷市が受け皿になって、移住定住も積極的に力を入れて進めています。その一方でこういった数字を謙虚に受けとる中で、教育委員会の皆さんには知恵を練っていただかなければいけないですし、私たちも一緒になって考え、今後の小中学校のあり方も、検討していかなければならないと思っています。

太田教育委員

非常に難しい、しかも大きな課題だと思えます。少子化の進行を踏まえた将来の学校の姿、岡谷市だけではなくて全国で直面している問題だと認識しています。かつ、少し大げさに申し上げますと、これだけ急激な子どもの減少もそうですし人口の減少が、短期間に起こるのは、もしかしたら人類が初めて直面する、そのぐらいの課題ととらえても間違いはないかと思っております。これから試行錯誤しながらの挑戦になる、そんな認識を持っております。

私も総合計画に若干ですが、関わらせていただいておりますので、岡谷市の人口をどうやって維持していくか、或いはあわよくば少しでも増やしていくかについて、具体的に様々な手立てが実行されているということはよく理解しているつもりですし、とても大事なことだと思っております。ですけれども、これはそれだけで実現ができるのかということと非常に難しいということも現実だと思えます。同じようなことを全国すべての自治体に取り組もうとしている。これは人口が減り続けていく中で、お互いがそういうことをやるということになれば、どこかの地域がプラスに働いて、残念ながらどこかの地域がマイナスになる。お互いが一生懸命努力すればするほど、全体では疲弊せざるをえないという現実が実際あると思えます。まさに外から移民でも受け入れない限りは、そういう状況が続くということになります。先ほど市長さん申し上げましたが、そういった努力、対策を丁寧に進める一方で、この現実と向き合って準備もしていかなければいけないと理解しております。15年後に子どもの数が約60%、25年後には50%という試算が出ています。15年後20年後というと少し先のような感じがしますが、きっと今までの自分の経験から言うと、あつという間に、そういう時期が来てしまうと思っておりますので、今からきちんと認識をした上で向き合って進めていかなければいけない課題だと認識しております。その時に一つ思うのは、非常に大げさな言い方ですが、これだけ急激に短期間の減少は、本当に私たちは初めて直面する事態だと思っておりますので、もしかしたら今まで私たちがいる意味、人口が少しでも増えていくという前提の社会でやってきたことと正反対のことをしなければいけない、そのぐらいの事なのかもしれないともとらえています。そうしますと、特に学校教育では、まず当面の社会にすぐに役立つような人間を育てていく。それは、これまでの価値観と違う考え方に基づいて、やっていかなければいけないのかもしれないと思っています。私に具体的な手だて、案があるかということとそんなものではないですが、ただ一つ思っているのは、その現実と向き合う時に考える学校教育の大前提は、規模が小さくなって今のような状態での集団の学びは難しいだろう。それから学校の規模も小さくせざるをえないだろうということをも前提にした上で、それでも子どもたちが、そういう時代に新しく自分たちで考えて、自分た

ちの未来を、社会と一緒にあって切り開いていけるような人材を育てていく。そのために役立つような教育が必要になってくると思います。その時が、もう既に始まりつつあると思っています。その時に、学校の規模が小さくなったり、1学級のクラスが小さくなったり、ということが当然考えられますが、一つ参考になると思っているのが、この次の議題、岡谷市が進めている幼保小連携の取り組みが非常に参考になると思っています。今進めている岡谷市の幼保小連携や小中連携の考え方が、実際に行われていることを研究して、或いは感じた上で、集団に対してどうするか以上に、一人ひとりのお子さんに対して、関係する先生方や職員の皆様が目を配って、一人ひとりの学び、成長をどうやってきめ細かく、対応していくのかという観点がかかなり発揮されつつある。そういう観点に立って物事が進められるのではないかということ非常に嬉しく思っています。

そう考えた時に、これから先、本当に私たちが経験していないような社会を生きていく子どもたちに対しての教育は、やはり同じように、もっと大勢の先生方や大人が、1人の子どもにきめ細かく学校教育という現場を通じて携わっていけるような学校づくりを進めていくということを、私はぜひやってみたいと思いますしそうやって欲しいと願っております。そうしますとこれは現在の仕組みで、各学校の先生方の数だとかそういったことは、岡谷市だけで決められないことは承知しておりますが、そういったところの考え方、仕組みを今後検討していく中で、少しずつでも変えていくようなことができ、もっともって十分な先生だとか、関わる方を確保しながら、逆に規模が小さくなっていく、子どもが少なくなっていくという学校現場の中で、今まで以上に子どもたちに、しっかりと関わり合いも出るような先生の配置だとか、大人の取り組みを進めていくことによって、逆に小さくなる学校、集団が少なくなっていく学校、そんなところでの学校教育というものを、より充実をさせていく手立て、道筋というものも考えるのではないかなと思っておりますので、できるかできないということは全くわかりませんが、是非そんな方向で今後の岡谷市の学校運営を考えていければ良いと個人的には思っております。

小平教育委員

大変ショッキングなデータだと私も感じました。15年後には子どもが半分近くになってしまうということで、統廃合であるとか、建築物のことがものすごく気になります。それで行政の方も大変ご苦労されるかと思えます。それでも皆さんしっかり計画的にやっていただけるかと、そこは能力の高い岡谷市行政だと思っておりますので安心しております。

知り合いの小さいお子さんを持つお母さんが、小井川小学校が古くて行かせたくないとおっしゃっていたことがありました。私の主人も主人の父も小井川小に通っていました。歴史ある由緒あるといえば形はいいですが、そういうふうにとらえてしまったというのが現実だなと、ちょっと寂しく思いましたが、実際、設備とか子どもたちが過ごす場所の環境が良いのは、子育てしている人たちは魅力を感じると思えます。学校が少なくなると通学が大変になる。通学バスとかのケアも大切だと思いますし、そういうことは行政にお任せの部分であります。

人間の力という、子どもたちの成長に対する人間関係ですね、クラスが少人数になってくると風通しが悪いとか、固定した人間関係の中で、行き詰まってしまうことも心配されます。そういう時に各学校が合同イベントをするとか、例えば、オンラインなどで外部の方と交流を図るとか、アイデアで克服できる部分があると思います。教育委員会の会議も時々会場を変えたりしてとても良かったです。子どもたちも、同じ教室にずーっと座って勉強していること事態、今の時代にそぐわない気はしますので、そこはアイデアで、子どもたちに良い影響が出るような、教育の仕方ができていくと期待しております。マイナスは沢山ありますがプラスに変えるような考え方を、ぜひ子どもたちのためにしていけたらと思います。

藤森教育委員

太田委員さん小平委員さんのご発言と重複もありますが私の視点ということで、今15年後とか25年後という未来の少子化の話が出ていて、確かに今の状態のままで時間が過ぎると子どもだけ減ってしまうような、ややもするとそんな錯覚に陥ってしまいますが、当然ですが、例えばテクノロジーもそうでしょうし、社会そのものも15年、25年で統計出てくる中でいろんな形で変革をしていく部分もあるということをご承知の通りだと思います。これから子どもたちが減っていくという中で、社会の変革に対して教育ニーズが変わっているということ、その時々でしっかり見せながら未来に向かって早くから対策を考えていく仕事は一番必要だと思います。その中で教育現場だけでなく世の中の何が変わって行くかということをしかり見ながら、やっていくことも必要だと思いました。

教育現場では、例えばこの1、2年のコロナもあって発達したと思いますが、GIGAスクール、1人1台端末、これは大きな変革だと思いますし、これから先、AIとか、色々な事が盛んに言われていますが、おそらくそういったものが教育現場にどんどん入ってくることになっておりますので、予算や色々な課題が出てくるとは思います。いち早く的確に教育現場、学校に取り入れていくということも必要だと思います。その一方で人と人との繋がりが、すごく重要になってくるとは思います。当然ながら生産年齢人口が減ってくる中で先生のなり手や、働ける若い人が減ってくるといった現実もあると思います。

先ほど小平委員さんがマイナスばかりでなく、プラスにするということをおっしゃった、僕もそんな風に思っていて、その中で特に学校では、地域の高齢者の方や、いろんな皆さんに今より学校に関わっていただく、コミュニティスクールというのも大分定着してきていると思いますが、さらにもう少し進化させていくような形で、地域全体で学校を見守っているというよりも、そこにも関わりながら地域の宝として、学校をしっかりと皆で支えていく、そういった気運を醸成していくことも必要になってくるのではないかと考えています。

私もあまり人口減少、少子化を悲観的にとらえるということではなく、それによって世の中全体、社会全体がどう変わっているのかということをしかりと見ながら、それに向けて色々な策を考えていく姿勢が大事だと思いました。

高木教育委員

学校現場を考えると人数がどんどん少なくなっていく、クラスの人数が少なくなっていくということは、良い面では一人ひとりの子どもに目が向いて、手

が入っていくということであると思いますが、その分、子どもたちがお互いに切磋琢磨して、学校という社会の中で社会全体を学んでいくという点からすると、人数が限られてくると弱くなってくると思います。そうすると、どうしても統廃合ということを考えていかなければいけないと思いますが、子どもたちを地域で育てることも大切だと思います。私はいつも地域というものをどうとらえたらいいのかが自分の中での課題ですが、20年後30年後を考えた時に、岡谷市という枠だけで地域を考えてはられない時代が来ると私は考えていて、近隣の市町村とも共に考えていかなければいけない時代が来ると考えています。とても大きな課題ですし、人口が半減していくことを目の当たりにした時に、辛い面もあると思いますが、前向きに考えていきたいと思っています。

草間職務代理

いよいよ成長時代から成熟時代に入ったというのが、この人口の推移を見て感じます。ついこの前まで電話は一家に1台だったのが、今は一人1台という速いスピードで進んでいます。教育は子どもたちが将来生きていくためにどうしても必要な学力と、集団生活の中で生きていく力をつけるというのが、岡谷の教育の方針となっております。そのために、人口が減っていくということは、子どもたちの集団形成に影響が出ると思います。子どもたちがこれからいかに将来の自分の人生を考えるかという時に、子どもたちの数が少なくなると統合を考えますが、その前に岡谷の場合では例えば、同一の敷地内に小中学校があるとところもあります。そういうところではある程度融通の利く配置とか、子どもが少ないところが小中一緒になって生活する、その中で子どもの成長が望まれる。また岡谷市の大事な設備が有効に利用できるような事を、今から至急考えていく必要があると思います。

将来、小学校が学年1クラスというところが出てきます。確かに少人数学級でしっかりと先生が子どもを見るのも一つのいい面ですが、やはりそのままだと集団生活の中からの将来の子どもたちの成長に影響があるとすると、例えば専科の音楽なら、ここの小学校とここの小学校を一緒にできないかとか、統合というよりも子どもたちが一緒になる中で集団生活を行う。クラスが少なくなると先生も少なくなるわけです。専科の先生が少なくなるので、その辺はこれから考えていかないと子どもたちの個性を伸ばすという面においても影響があるのではないかと思います。それで15年後を考えると本当に子どもの減少率が大きいのでびっくりしてしまうわけではありますが、やはり15年後、20年後も、人口減を考えながら、岡谷独自の教育をどうしていったらいいか。もう交流だけでは賄えない、いよいよ統合というところへ必ず来るとは思いますが、統合は地域の方のご協力がないとなかなかうまくいかないわけですので、早めに手をつけていただいて、じっくりと地域の方が望むような、子どもたちの幸せを岡谷市で保証してあげるような形がいいと思います。市長さんに望む事は、岡谷の産業を頑張っていただいて、若い人が岡谷に定住して結婚して子どもを育てる。岡谷市の学校教育は手が細かいところまで行っていると思いますので、人口減を見ながら早めに対策をし、打てる手は打っていただきたいと思っております。

市長

それぞれの委員さんから、それぞれの悩みも含みながらもお話をいただいた

かと思えます。本当に共通の悩みだと思えます。

生徒数、児童数が減ると、先生が少なくなってしまう。そうすると学校教育の充実といったところで非常に痛手だと私も教えてもらっているところです。やはり、その時々で時代のあり方も変わっていく部分もあると思えますし、教育の方法も変わっている部分もあると思っております。先ほど話を出していただきましたが、4、5年前まではなかったGIGAスクールという構想もあるわけで、そういったものを有効に活用した教育も必要でしょうし、もう一つは、人と人との触れ合いも大切だという、両面があり、これは永遠のテーマだと思えます。

教育は、その時々で変わっていく部分と、変わらない、変えてはいけない部分があると、私は素人ですが常々思っているところであります。その変わらない部分は変わらない部分で、大切に守り育てながら、変わっていく部分は皆さんと共に知恵を出しながら大胆に変えていく。少子化の中で子どもたちが、それぞれの教育が受けられるような環境を皆さんと共に作っていかれたらと思えます。プラスの部分があればマイナスの部分もあるかと思えます。それを上手に皆で知恵を出して組み合わせなければと思えますのでよろしく願いいたします。

## 議題2 幼保小連携および小中連携の現状と展望について

副市長 続きます、教育委員会より議題の2ということで、幼保小連携及び小中連携の現状と展望についての説明をお願いいたします。

### 【岡谷市校長会会長 岡谷田中小学校井出校長より説明】

(資料) 岡谷市における幼保小連携および小中連携の現状と展望

副市長 ただいまの説明がありました議題につきまして、意見交換したいと思えます。最初に市長さんお願いいたします。

市長 先生から色々な説明を聞かさせていただきありがとうございます。絹結（きぬゆい）というネーミングをつけていただいて、まずこれは大感謝でございます。私も大変気に入ったネーミングです。

先生に話をさせていただいた中で、先生方が一生懸命、小中や幼保小の小一のギャップなどを解消するために、先生方に研修を重ねていただいて、児童生徒の不安を減らそうということをやっていることに非常に感謝いたします。こういったことをさらに進めていただきまして、小学校中学校の先生の連携が密にとれて、お互いの状態が把握できるような形を作っていただいて、児童生徒の状態の把握につなげていただければありがたいと思っております。もう一つ、小中連携と言うとハード的なものを連想してしまって、一緒にしなければいけないみたいなことを私も考えてしまっているわけです。ですが岡谷の地形などを考えると、それは難しいと考えながら行き詰まっているのですが、この話を聞かせていただきますと、ハードではなくて教育の中身の幼保、小中の連携というものを取り上げていただいている。このことは非常に大切なことであるし、私たちにも大きなヒントを与えていただいていると思っております。

先ほどの少子化の問題もありまして、小中学校のあり方を考えなければいけないわけですが、こういった教育の中身の小中連携、これをしっかり考えていくことが前提にあるということを理解させていただきました。ありがとうございます。

高木教育委員 以前は、先生方は子どもたちを目の前にした時、多くはゼロスタートで子どもたちのことをそこから知っていくということだったと思いますが、この絹結プログラムがあって、子どもたちの成長の歴史を見た上で、つまずきとか、心を配らなければいけないことも、ある程度ヒントを得てスタートしていけるということは非常にありがたいことだと思います。

私も川岸小学校の放課後居場所づくり事業にお手伝いで行かせていただいた時に、西中の吹奏楽の生徒たちが来て、その場で演奏してくれました。川岸小の子どもたちは本当に憧れを持って、お兄さんお姉さんたちの演奏を聞いていました。そういう場を、放課後居場所づくり事業で教育課程の中ではないですが、学校の中でそういう場が持てるという事は、子どもたちも自分の将来の夢や希望を持てる素晴らしい場だと思っています。たまたま川岸小と西中はお隣同士ですのですぐそういうことができると思いますが、他の学校であっても、市でバスを用意してくださるとかがあれば、これからもいくらかでも可能だと思いますので大きな発展性のある事業だと思っています。

太田教育委員 まだまだ私の理解は細かくはないと思っています。でも先ほど少子化のところでも申し上げたように、これはあくまでも勘です、予感ですが、この幼保小連携、小中連携を具体的に進めていくと、少子化時代の学校のあり方にも繋がるような芽がある気が非常にしています。具体的な事として私が感じているのは、これまでの学校教育というのは、小学校1年生から6年生まで、それから中学校1年生から3年生までという中でのコミュニケーション、繋がりももちろんあったと思いますが、中心は同じ学年のメンバーとのコミュニティーだったと思います。ですが、この連携が発展していく先には、それとは別のハードの面でもソフトの面でも両面で、同学年というところを超えた縦の繋がりのある学校教育間のコミュニティーを中心にした学校教育というものも考える芽が、この中に非常に強くありそうだということも感じています。これを進めていくことができれば、少子化時代の学校教育のあり方は、よりプラスの側面として学校内でのコミュニティー、また違った形の可能性のある集団としての教育というものもありうるのではないかと、そんな予感がギシギシしておりますので、是非より強力に進めていただければと思っております。

藤森教育委員 今まではどちらかというと、幼稚園保育園があって、そこから、ぷつと切れて、小学校義務教育が始まって6年間学べた。また、ぷつと切れて、それぞれ中学校に行くという区切りみたいな感じで来ていたのですが、子どもにしてみれば一人の子どもの人生、連続で繋がっているところがすごくあって、教育という観点から見たときに幼保小連携、小中連携、これは絶対避けていけないと思います。先ほどの少子化問題も踏まえて考えた時に、より制度を充実していくという意味では絶対この連携は必要だと思います。岡谷市がこういった取り組みを先進的にやっていることに関してありがたい事だと思っております。

す。今まで、それぞれの点だったものが、点が繋がって線になって、その線がやがて面になってくるイメージです。岡谷市はそんなに大きなまちじゃない、往来も自由に動きやすいし、高木委員さんおっしゃっていましたが、バスか何かを使えば色々なところに移動しやすいというのはプラスとして活用できて、それぞれの小学校区から中学校って決まっていますがオール岡谷でチーム岡谷みたいな考えで、岡谷市全体でスケールメリットが生かせるような連携を考えていくと、より面白いのではないかと考えています。

先ほどからハードではなくてソフトを考えると学校同士の繋がりがばかりに目が行きますが、そんなに大きな話ではありませんので、逆にいい意味で活用して全市的な視点でやれば面白いのではないかと、思いつきみたいな発言で恐縮ですが感じました。

小平教育委員

小学校に入った頃と中学に入った頃は本当に子どもの持っている世界は大人が想像するよりも狭い。狭いという言い方は良くないですが、新しい世界の中で精一杯やっていくという状況の時に、そこでちょっとのことで差がつくものすごく人生に大きな傷、気持ちに傷がつくようなことがあると思いますので、そこに着目してこのようなプログラムを組んでくださったことをすごく価値があると感じています。私がいいと思っていたところは先生方の連携というところが素晴らしい取り組みだと思います。先生方忙しいと思います、まわして行くだけでも大変な中で、カリキュラムなど体系的に作ってもらえると先生方もしっかりと取り組めるようになるし情報交換もしやすいと思います。

岡谷スタンダードカリキュラムも、岡谷ではたくさん学ぶというよりアイテムがたくさんある。シルクですとか遺跡であるとか、工業、産業、食もそうですが、逆にたくさんありすぎて先生方も選ぶのが大変ではないかなと思います。先ほどの説明にあったように、同じことを先生方取り組んでしまうことがあったということで、これを満遍なく子どもたちにしっかり体験してもらうには、先生の連携も大切だと思います。岡谷の大切な郷土の文化とか産業とかをしっかりと、全部満遍なく身に着けてもらいたい。先生方がうまく連携して共有や報告し合う場があるのはとてもいいことだと感じました。とてもプラスになる、ものすごい効果が出るプログラムだと思います。

草間職務代理

今、小中学校でやっているいじめ根絶子ども会議、本当に素晴らしい会議で、小学生、中学生が真剣に議論を尽くして、議論の中から結論を導き出すという、いい連携の例だと思います。幼保から小に入る時にいろいろなお子さんを見ていますが、子どもが幼保から小学校に行くと時間割の中で椅子に座っているということが、最初はすごく苦痛だと思います。第1子の保護者の方には中々そういうのが理解できない部分が多いと思います。是非保護者もこのプログラムに参加して、実際にこれから上がる小学校の実態も経験できて子どもと共に小学校へスムーズに幼保から行けるようにプログラムを充実させていただければと思います。中々一年生は学校へ行くのも大変な子どもも多く見かけます。これからこのプログラム、幼保、小中は先生方の努力で子どもたちも自覚してやっていると思います。ぜひ岡谷の特色だと思いますので、充実して進めていただきたいと思います。

市長 色々な意味で、保護者の側から見たときに心配な課題だと思っています。草間委員さんが、子どもだけじゃなくて保護者にもプログラムに参加して安心してもらおうという仕組みが必要だという発言だと思いますが、私も先生に少し考慮していただいて、必要以上に心配してしまうこともあるでしょうし、逆に心配しなければいけないのに全然気にかけていないということもあるかと思っていますので、子どもの問題だけではなくて、保護者の皆さんも小1プロブレム、中1ギャップを乗り越えていただければありがたいと思います。

私も思い出しまして、保育園に行ったはずですが、最初、小学校で椅子に座っていなければいけない理由はわかりませんでした。そんなことがありまして、さっき先生の話、そうだなあなんていうことを、ふっと思い出しましたので、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

### 議題3 児童発達支援の現状と今後の展望について

副市長 続きまして議題の3としまして、市側から児童発達支援の現状と今後の展望について、子ども課より説明をさせていただきますのでよろしくお願いします。

【子ども課長、子ども発達支援センター長、子ども発達支援センター主査より説明】  
(資料) 岡谷市子ども発達支援センター

副市長 ただいま市側の事業につきましてご説明をさせていただきました。教育委員の皆様からご感想等があれば、お伺いしたいと思います。よろしくお願いします。

高木教育委員 先日、岡谷工業高校で学校評議員会がありました。その時に先生方から、発達の特性がある、すごく能力のあるお子さんだけれど、社会にこれから出ていくのにどんなふうにしていったらいいかということをお悩んでいますという話を聞いて、でも、学校でも、スクールソーシャルワーカーの先生の研修をお受けになったりして、とても先生方も学んでらっしゃるということがわかって感激して帰ってきました。今説明のあった今後の展望、まさにここだと思いますが、発達に特性のあるお子さんたちが増加傾向にあるけれども、その早期発見、早期支援に努めていくことで、子どもたちが社会に出て活躍していけるということだと思います。ますます子ども発達支援センターは重要な場になってくると思います。今お話を聞いても一人ひとりに寄り添って見てくださって、そして保護者の皆さんに温かい心を寄せてくださっているということで、家庭と一緒に子どもたちを育てて温かく見守って育ててくださっているということで、とてもありがたいことだと思います。これからは発達支援センターは大変重要な場になっていくと思いますので、大事にしていく場だと思っております。

太田教育委員 今聞かせていただいて、対象になるお子様への直接の対応だけでなく、保護者の皆様、それから子どもと保護者との家庭の中での日々の生活まで視野に入れて、きめ細かく対応なさっているということをお聞きして非常に良い取り組みですし、そういうトータルの視点で取り組もうとされているということに敬意を表します。安心というか、そういうような気持ちも持たせていただいた

ところでございます。その上でですがお聞きしてもいいですかね。これまでなさってこられて、保護者の皆様からの反応、どんな声があるでしょうかぜひお聞かせいただければと思います。

松下センター長 保護者の方々は、お子さんの子育てには、どんなお母さんでも頑張っています。頑張っているって言葉をあまり簡単には使いたくないです。「お母さんたちすごいね。私だって見習わなきゃね」という言葉をかけさせていただいていますが、やはりお母さん方が相談できる場が意外にあるようで少ないのかなと思います。今核家族が多いです、そうすると今までは身近にいるお爺ちゃんお婆ちゃんに子育てをちょっと応援してもらったり、アドバイスとかすることで負担が軽くなっていた部分もありますが、親御さんたちは核家族になってきて相談の場を求めているということを感じます。そんなに難しいことではないですが、先ほどお話したように、「すごいね、お母さんこれでいいんだよ」、その「いいんだよ」がすごく励みになるとおっしゃる方もいます。もしくはもっと深いものがあるかもしれません。心の中には話すことによって軽減される部分というのがあるかと思います。昔の子育てとは多少変わっていると思いますが、聞く姿勢を持ってあげることがとてもお母さんたちの気持ちには寄り添えているのかなということで、安心感に繋がっていると感じております。

太田教育委員 どうもありがとうございました。そういう状態であれば本当に保護者の皆さんにも良かったという場所になっているのではないかなと思いますので、今後ぜひよろしく願いいたします。

藤森教育委員 いろいろご説明いただきましてありがとうございます。資料の中に、孤独の孤という漢字を使って孤育て（こそだて）という言葉が入っていてすごくドキッとしました。本当に皆さんおっしゃられている通り、特に最近核家族とか場合によってはシングルの保護者の方であったりとか、本当に子育ての様々な悩みを抱えていたり、そんな話もよく聞く中で、言い方が適切かわかりませんが多くの保護者にとって救いになるセンターではないかということを感じた次第です。聞かせていただいた内容は充実していると思いますし、ぜひセンターが更に充実発展していくことを応援したいと思っています。その中でこの前定例教育委員会でも同じ様な事を発言させていただいたのですが、岡谷市の中に子ども発達支援センターがあって、悩みを聞いてくれたりするというのを、さらに広く市内は当然ですが、市外に向けてもPRするという、これはどちらかというと市当局の方へのお願いになると思いますが、今日は様々な議題をお話させてもらっていますが、統一したテーマで将来の少子化の問題だったり、人口減少だとか、そういった時に岡谷市がいかにか子育ての魅力あるまちであるということ、広く外に向かって発信をしていくということが大事だと思っておりますので是非そんなこともお願いをしたいと思います。

草間職務代理 子どもの約1割はグレーゾーンというか特性のある子どもということの中で、このように救い上げて育てていただいている、こういう子どもたちがまた元気に通園できたり通学できたりできるようにしていただきたいというのが、多分親にとっての願いですし教育委員会の我々としても、この子どもたちが本当に1人立ちできるように繋げていっていただくのは、大変嬉しい事だと思

ますので、是非これらも頑張ってください、この子どもたちが将来立派になるように、そんな風に願っております。

市長

教育委員の皆さんから様々なご意見、感想、そして励ましをいただいたと申しているところでございます。令和2年度までは機能が、まゆみ園にありましたが、発達特性をもつ子が増えているという事もありまして、保護者の皆さんに寄り添った支援ができないかということ、それから積極的に活動しなければいけないということで、先ほど見ていただいたパンフレットにありますように、色々な活動、巡回をしたり相談を受けたりなど、まゆみ園の時より活動の幅が非常に広がっております。そういった意味では、関係の皆さんのご理解のもとにこのセンターがあると思っております。関係の皆さんにお礼を言わなくてはならない立場にあります。ありがとうございます。さらに今頂いた意見を、もう少しで開設1年になりますので、反省や、更にどのようにしていったらいいのか、発達特性のある子どもたちに寄り添っていけるのか、保護者の皆さんに寄り添っていけるのか、検討を深めて充実して参りたいと思っております。いろいろなご意見をお寄せいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

## その他

副市長

次に、「その他」でございます。  
皆様から何かございましたらお願いいたします。  
(特になし)

## 閉会

副市長  
教育長

それでは最後に岩本教育長より本日のまとめをお願いしたいと思います。  
何かあっという間に時間が過ぎでしまって、本当はもっと色々なお話をお聞きしたいと思っております。総合教育会議の場を開いていただいて本当にありがとうございます。今日の人口減少或いは少子化社会への対応は、私ども教育委員会にとりましては避けては通れない今後の大きな課題であると思っております。本日は限られた時間ではありましたが、その課題につきまして大変有意義な意見交換の場となったのではないかなと思います。  
市長さんからは、教育の不易と流行という点触れていただいて、その両方を大事にすることが必要だ。或いはプラス面とマイナス面をうまく組み合わせながら進めていくことも大事だ。そんなお話をいただきましたし、委員の皆さんからも少子化に対応するということは大変厳しいことで、前向きという言葉もありましたし、プラスに考えて、そんな言葉も聞かされました。本当に苦しいからこそ前向きに取り組んでいくということ、これから大事にしなければいけないとつくづく感じたところでございます。貴重なご意見をもとに、引き続き様々な視点による検討を重ねて、岡谷の未来を担う子どもたち一人ひとりの健やかな成長と魅力と活力ある学校づくりを、着実に一步一步、考えて参りたいと思っております。

幼保小連携につきましては、イルフ西堀保育園に併設された岡谷市子ども発達支援センターでの療育支援の様子をご紹介いただきました。本当に素晴らし

い取り組みをされている。私どもも今、特別支援教育は非常に大きな課題の一つでございます。一人ひとりの子どもが自分の将来に夢や希望を持って、生き抜く力を付けていくにはどうしたらいいかという点で、どうしても必要な施設だと思っております。また、小中学校へ繋ぐ大切な支援をしていただいていると思います。教育委員会としまして、幼保小の接続期におけるアプローチ&スタートカリキュラム「おかや絹結プログラム」につないで参りたいと考えております。

市長さんからは、この幼保小中の連携についてはハード面というよりも教育の中身がとても大事であると、本当に力強い後押しの言葉をいただきました。また委員の皆さんからは、こういったことを着実に進めていくことが少子化に対応するいいチャンスである、そういうお話もいただきました。この連携という言葉が大事にこれからもしていきたいと思っております。市長さん始め市長部局の皆さんにおかれましては、岡谷の人づくりのために引き続きご理解ご支援をお願い申し上げます、私のまとめとさせていただきます。

本日は本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願いを申し上げます。

副市長

ありがとうございました。本日は委員の皆様から貴重なご意見等いただきました。以上をもちまして、本日の会議事項はすべて終了となりました。事務局に進行をお返しいたします。

企画政策部長

本日は活発な意見交換をいただきまして、誠にありがとうございました。以上をもちまして、令和3年度岡谷市総合教育会議を終了いたします。